

人材育成部会報告

R6年度実績・R7年度計画概要

学士課程 IoP実施3大学による共同授業科目を「次世代農業教育プログラム」で実施

■高知大学農林海洋科学部農林資源科学科 R7年度入学定員5名増決定(6/19) 新たな入試枠 地域志向枠15名設置

2年次からIoPを実践する県内トップレベルの法人農家、IoPの関連機器開発に携わっているIT企業等の関連企業にインターンシップの実践体験ができる体制を構築。

農林海洋科学部
カリキュラムマップ

改組によりIoPをより深く学びたい学生増
→大学院進学へ

地域を知り地域のために行動できる人材
→高知県・全国の地域へ

大学院進学

人材輩出

卒業論文

IoPや高知県を題材にした卒論で地域を主体的に捉える

地域の産学官の連携協働により
多様な学生を育成!!

地方創生推進士プログラムの
必修化により地域定着増
(COC+)

- 5th phase 地域と協働する
 - 4th phase 地域を体験する
 - 3rd phase 地域と会う
 - 2nd phase 地域をもっと知る
 - 1st phase 地域を知る
- (計18単位)

R5に新設
IoPの成果を
DS・DX教育に
還元

次世代農業教育プログラム (EPSA)

地方創生推進士プログラム

農林資源科学科教育プログラム

- ・次世代農業科学コース
- ・AI・プログラミング実践コース

高知県枠入学者は必ず受講

地方創生推進士プログラム・農学版を構築

高知3大学・高等専門学校が共有するプログラム。地域を知り、地域と会い、仕事を体験し協働する教育プログラムで、「地方創生推進士」として認証する。ローカル・イノベーターとして期待されている。(270人以上の輩出実績)

地域志向枠入学者は必ず受講

受験生は、地域課題に関心
しかし、実体験のチャンスがなく、
“地域”は漠然としたもの

地方創生推進士・農学版の構築・必修化により、“郷土愛”の芽生え・熟成をサポート&実体験のための現場を提供

☞ “地域”への定着を促進!!

高知県・公設試・JA、IoP関連企業など現場での学修を通じた地域定着の実現を目指す

希望者全員の受け入れ体制を確立し、インターンシップ受講者が大幅増!

キャリア形成教育

IoP篤農家、JA、試験研究機関、農業法人等への
インターンシップ (実施年次: 3年次⇒2年次)

AI・プログラミング教育

DS・DX専門科目

6次産業化教育

定員増 5人
+10人(定員枠内)

【地域志向枠15人】
全国から高知へ

高知県枠 15人 +3年次編入枠2人
(R5年度改組で達成)

地域志向枠 15人
(R7年度改組)

・高知県の高等学校等からの強い高大接続ニーズ
・IoP塾や高校生訴求の取組でIoPに興味を持つ高校生が増加

・高知県や地域での産業振興に関心を持つ受験生を全国から受け入れ
・県境を越えた募集により、全国の高校生に高知県の魅力を訴求

高知県内外から“地域”の将来を担う高い志をもつ人材を募集

(合計30人 学科定員(140人)の21%)

学士課程

R6

実績・成果【2024年】

①「高知の最先端農業IoP入門セミナー」(4/17~7/31)

受講者：382名(高知大222名、工科大160名)

【全15講座】

理解度96.8%
満足度97.5%

- 高知大学の履修登録者は、次世代農業教育プログラムの宣伝効果もあり過去最高を記録
- 研究者、高知県、公設研究員、企業、農家らプロジェクトに関わる専門家による授業
- サステイナブル分野の研究者も授業を実施

③「次世代農業を感じてみよう！IoPスプリングスクール」(2/18~19)

受講者：17名(高知大8名、工科大9名)

理解度100%
満足度100%

・最先端施設園芸施設での栽培や、園芸産地における流通について理解を深める。

高知県で展開する次世代型施設園芸をはじめとする農業生産の現状を理解する。

- 2/18 (株)サンビレッジ四万十、四万十とまと株式会社
- 2/19 高知県園芸流通センター、JAグリーンはるの、雨森農園

計画【2025年】

■IoP入門セミナー、IoPスプリングスクール、IoPサマースクールを高度な専門人材を継続して地域に輩出を目的とした①データ駆動型農業を理解・実践するための高度な教育、②地域社会と連携したキャリア形成教育を体系的に学ぶ農林海洋科学部「次世代農業教育プログラム(EPISA)」のDS・DX入門科目として継続実施
令和7年度以降入学者からDSやDXを活用して、一次産業が基幹産業である中山間地域の活性化を推進する人材育成を目指して、地方創生推進士(農学版)を実施。

②「データ農業をやってみよう！IoPサマースクール」(9/9~13 高知大で3日、工科大で2日実施)

受講者：12名(高知大8名、工科大4名)

- データ農業実現に必要なデータサイエンス、プログラミング・環境計測技術を学ぶ
- IoPプロジェクトに参画する研究者らが講義・演習を実施
- IoPハウスの見学、ラズベリーパイを用いた実習等もあり

理解度100%
満足度90%



④IoP特別インターン(有)四万十みはら菜園・高知県立農業担い手育成センター(10/31~11/1)

参加者：2名(高知大)

満足度100%

- 高知県農業の担い手確保対策や高度先進的な農業経営を実践している生産法人を見学・体験することで、高知県農業の現状や課題を知る。

⑤見学会(1/11)

(エフビットファームこうち(株))

満足度100%

- 高知県本山町で展開する総面積21,570㎡の、バイオマス発電所と次世代型園芸施設を組み合わせた地域密着型の農業クラスター事業。隣接する2,000kW級のバイオマス発電所の排熱や排ガスを再利用する次世代型園芸施設は、日本初の取り組み。

参加者：11名

(高知大7名、工科大4名)



修士課程 IoP実施3大学による「大学院特別プログラム」 ■IoP連携プログラム (IoPに関連する各大学専門分野(農・情報・健康栄養)を学ぶ)

■IoP共創センター専任教員2名(岩尾先生・野村先生) 農林海洋科学専攻(修士課程) MO合取得 R7から主指導開始

R6 実績・成果【2024年】

理解度100%
満足度100%

①IoP特別セミナー(4~7月)【全15講座】

受講者: 6名(高知大2名、工科大1名、県立大3名)

IoPプロジェクトに関連する
様々分野の専門家から話題提供
(R5年度から展開枠の取組: 農業GX講義開始)
アンケートの結果
受講者からは、理解度、満足度
ともに100%の高評価



③IoP特別インターン (IoP基礎)
(有)四万十みはら菜園・高知県立農業担い手育成
センター(10/31~11/1)
参加者: 1名(高知大M2)

理解度100%

・高知県農業の担い手確保対策や高度先進的な農業経営を実践している生産法人を見学・体験することで、高知県農業の現状や課題を知る。



②IoP特別研究(中間発表 9/25) 発表者: 3名
(高知大1名、工科大1名、県立大学1名)

満足度100%

参加者: 学士3名、修士1名、教職員11名参加

3大学の学生と教員の交流を通して、大学間連携および他分野研究の理解を深める。

《発表題目》

- ・「低温条件下における果樹の馴化・脱馴化(じゅんか・だつじゅんか)プロセスの解明」
- ・「ステレオ画像処理を用いたユズ果実サイズ計測手法の検討」
- ・「蛍光X線分析を用いたニラの非破壊によるカリウムの定量法の提案」

計画【2025年】

①IoP連携(修士)プログラムの実施

- ・オリエンテーション/ガイダンス実施・IoP特別セミナー実施(入門セミナー、認定セミナー[各種シンポ等])
- ・IoP特別研究実施(夏頃に3大学合同研究発表会等を計画)・IoP基礎(学士集中講義活用)
- ・IoP特別インターンシップ(希望があれば企業等と繋いで実施)

②R7年度IoP連携プログラムの在り方・方向性検討・決定

④見学会(1/11) (IoP基礎)
(エフビットファームこうち(株))

理解度100%

・高知県本山町で展開する総面積21,570㎡の、バイオマス発電所と次世代型園芸施設を組み合わせた地域密着型の農業クラスター事業。隣接する2,000kW級のバイオマス発電所の排熱や排ガスを再利用する次世代型園芸施設は、日本初の取り組み。

参加者: 2名(県立大)



IoPに出会う

教育委員会との連携による中高生へのIoP訴求

IoP塾Archivesの授業活用について、意見交換を実施

■ 農業高校等訪問

・高知農業高校 (6/27)、春野高校 (7/8)、幡多農業高校 (6/27)、嶺北高校 (7/3)、高知工業高校 (7/4)

■ 農業大学校 (7/11訪問)

■ 高知県教育委員会 (7/23訪問)



■ 学校授業での活用増加 (単位: 人)

授業での活用	実数	延数
高知農業高校	73	111
幡多農業高校	42	42
農業大学校	43	464
合計	158	617

IoP塾Archives (R7.2.18時点)
 動画コンテンツ: 112講座
 144本

IoP塾 (R7.2.18時点) ※高校生IoP塾会員増加
 会員登録数: 865名 (うち高校生131名) (R6年度84人増)

IoPを学ぶ

R6 実績・成果【2024年】

IoP塾出前授業

高知農業、幡多農業にIoP共創センター教員が出張し、IoPやスマート農業に関する授業を実施 (県の次世代産業人材育成事業と連動)

■ 高知農業高校

開催: 9/19
 参加者: 1年生35名
 3年生4名



■ 幡多農業高校

開催: 9/20
 参加者: 1年生22名



高知県教育委員会 (7/23訪問)

■ 次世代産業人材育成事業の継続実施

高知農業高校1年生27名・幡多農業高校1年生15名 合同授業 (12/25開催)

■ 農業クラブ全国大会に向けた県内農業高校研究力

農業クラブ四国大会 (8/23・24) 幡多農業高校強化 優秀賞を受賞

高知農業高校 大学視察(5/30訪問)

■ テーマ: 環境制御下におけるフルーツトマトの生育・収量・品質に関する研究』及び『ICTを活用した新しい農業』 農業総合科3年生14名



IoPデジタル教材の活用

■ IoPデジタル教材連携に関する協議会(8/26) : IoPクラウド接続農場に農業大学校を追加

■ 「トマトに関するオンライン合同授業実施」 (10/24) 高知農業高校2年生14名、幡多農業高校2年生13名、農業大学校1年生15名、県内篤農家 (Web)

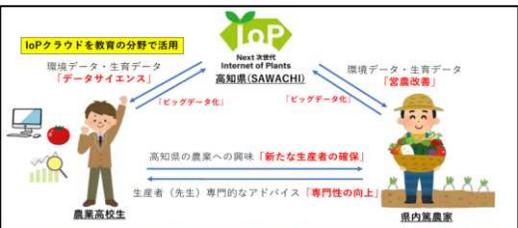
計画【2025年】

IoP塾Archivesの活用検討、実施 IoPデジタル教材の活用

高校教育指導者育成

● 農業高校現職教員を長期研修受入れ研修修了後は、配属高校においてIoP授業を実施

- ・IoPデジタル教材作成・更新・活用
- ・農業高校指導者の研究力強化
- ・農業高校の農業教育高度化



IoPを活用した高知県らしく高知県にしかできない農業教育

高知大学へ

● 次世代農業教育プログラム 地域枠必須
 次世代農業科学コース: スマート農業の生産から加工流通までを学ぶ
 AI・プログラミング実践コース: データ駆動型農業の理解・実践に必要な知識を高度に学ぶ

● 地方創生推進士プログラム (農学版) 地域志向枠必須
 地域を知り、地域と会い、仕事を体験し協働する教育プログラムで、「地方創生推進士」として認証

● インターンシップ
 ・高知県農業技術センターなど公設試験研究機関で技術・技能を学修
 ・農業改良普及所、JA高知県、IoP先進農家、IoP関連企業などの現場で実践力を習得

- 地域枠創設 (R5年度スタート)
- 地域志向枠創設 (R7年度スタート)
- キャリア教育強化
 - ・トップレベルのIoP先進農家へ
 - ・IoP関連企業へ
 - ・研究機関(農業技術センター)や普及組織へ
- 女性教官や研究員と女子学生の交流を促進

土佐FBC-学術指導コース

自立的に研究開発を進め、食品産業を成長に導くことのできる産業人材を育成



R6

実績・成果【2024年度】

①土佐FBCIV 学術指導コース

企業等の事業計画や研究計画に基づき自立的に研究開発を進め、学術指導制度等を活用し、企業の商品開発や生産性向上のための課題対応や、将来、大学との共同研究や大学院進学者の輩出等を目的とした産業人材を育成する。

学術指導 7 件・学術指導コース生 15 名
(A社1件:2名、B社3件:8名、C社2件:4名、D社1件:1名)

企業	指導題目	指導期間
A社	果実ピューレの機能性表示食品届け出の検討	R5.7.24~R6.9.30
B社	豆類の有効成分測定	R5.11.1~R6.10.31
B社	企業モニターアンケートプロジェクトに関する助言等	R5.11.1~R6.10.31
B社	豆類の有効成分測定	R5.11.1~R6.10.31
C社	露地作物加工品の機能性関与成分の指導及び、機能性表示食品制度の学習指導を受ける為の事業内容や施設確認	R6.12.4~R6.12.13
C社	露地作物加工品の機能性関与成分の指導及び、機能性表示食品制度の学習指導	R6.12.18~R7.3.26
D社	商品開発に必要な成分調査や文献調査等	R6.12.23~R7.12.22

うち 1 件については、高知大学との共同研究に発展 (R5.7.10~R7.3.31)

A社 学術指導コース
加工食品の機能性表示食品を届出
2024年8月21日 J569

計画【2025年度】

- ・学術指導コースの継続実施
- ・イノベーション創出基礎コース継続実施
- ・社会人大学院生リクルート活動



開講期間を設けず、随時募集し指導を行う。
4名程度/年 毎月1回 (金曜日10:00~16:00) 対面 全5回
土佐FBC修了生1名が、高知大学大学院総合人間自然科学研究科 (農林海洋科学専攻 修士課程) 合格 令和7年度入学予定

②土佐FBCから大学院進学

高知大学大学院総合人間自然科学研究科
農林海洋科学専攻 修士課程

令和6年度 2名入学 令和7年度 1名入学

③イノベーション創出基礎コース (令和6年度開始)

企業等が新たな取り組みにチャレンジできるよう、食品の分析、機能評価、加工等に関する基礎技術を学ぶ。
「化学基礎実験」「食品機能」「食品分析」「品質管理」「食品加工」「情報検索」の合計25時間を、1年間で履修。

令和6年度受講生 5名

④土佐FBC Sコース修了生成果

- ・商品名：高知の生姜とうふ
高知家のうまいもの大賞2024・最優秀賞受賞
- ・Sコース受講生 (日高わのわ会) の研究から共同研究に発展。
日高村「日高村特産トマトの新たな強みの発見等研究」

R6 人材育成部会関連事項 大学改革、機能強化、地域・国際連携関係

- ① **【大学改革】** トップレベル人材の招聘
 展開枠から新たに取り組むサステナブル分野のトップレベル人材をIoP共創センターの客員教授としてR6年度も継続招聘（R5.7.1～）。
 ・ 関根 泰（早稲田大学）・高岡 昌輝（京都大学）
 ・ 林 健太郎（総合地球環境学研究所）は、スーパーバイザーとして参画サステナブル分野トップレベル人材として新規客員教授を招聘
 ・ 船水尚行（北海道大学名誉教授 前室蘭工業大学理事・副学長）（R6.12.1～）
- ② **【大学改革】** 農林海洋科学部定員増・地域志向枠設置
 ・ 文部科学省「令和7年度 魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」事業 採択（6/19）**入学定員5名の増員**が決定
 新たな入試枠「**地域志向枠**」**15名を設定**。
- ③ **【大学改革】** 外部資金採択（連携協定締結した北海道大学教員と連携）
 ・ 高知大学松川先生 生物系特定産業技術研究支援センター(生研支援センター)
令和5年度補正予算「戦略的スマート農業技術の開発・改良（畜産分野）」採択
 事業実施年度：R6～R8年度 令和6年予算額100,000千円
 研究目的：肉用牛生産の基盤となる発情および疾病を、画像センシングによって早期に検出し、さらに予測する技術を開発する。
- ④ **【大学改革】** （北海道大学連携協定期間更新）
 ・ 連携協定の有効期間令和7年3月31日に伴い、連携協定による両大学の実績および今後交流計画について協議し、**令和9年3月31日まで期間を更新**。
- ⑤ **【大学改革】** 数理・DS・AI教育プログラム 認定制度（応用基礎レベル） ・農林海洋科学部申請（申請期間：令和7年3月～5月）
- ⑥ **【中高生等訴求】** IoP広報
 ・ オープンキャンパス（**自民党進藤金日子参議院議員の視察**）高知大学を希望する高校生に対し、改組後の農林海洋科学部、IoPプロジェクト概要等を紹介。
 開催日：8月4日（対面方式）参加者：553名（うち学生264名、保護者289名）

- ⑦ **【教育委員会関係】** 農業高校学力強化
 ・ 令和4年度、5年度に幡多農業高校から受け入れた教員が幡多農業高校、高知農業高校に配置され、**IoPデジタル教材を活用した授業を実施**。
 ・ 次世代産業人材育成事業の継続実施（12/25）
高知農業高校・幡多農業高校合同授業、農業系高校OBOG大学生4名との意見交換会実施 受講生42名 高知農業高校1年生27名、幡多農業高校1年生15名
 ・ 農業クラブ全国大会に向けた県内農業高校研究力強化

- ⑧ **【国際連携】** 日越大学・インドマハラナ・プラタップ園芸大学
 <日越大学>
 ・ 令和6年5月に締結した協定及び学生交流に関する覚書に基づき、**令和7年5月（1か月間）農林海洋科学部特別聴講生としてインターンシップで受入れ**。
 <インドマハラナ・プラタップ園芸大学>
 ・ インド国JICA円借款事業「ハリヤナ州における持続可能な園芸農業推進事業」において、高知大学及び高知県とインド・マハラナプラタップ園芸大学の学術連携（共同研究・教育/普及活動）を行うため、**令和7年2月21日MOU（大学間協定）締結**

人材育成部会KPI

KPI③：専門人材育成プログラム受講生の地元就職・起業数126人（累計）

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	～	2027
当初目標	—	0人	4人	16人	28人	42人	54人	66人	～	126人
実績(累計)	—	0人	5人	20人	30人	40人	56人	67人	～	

KPI⑤：大学院(修士課程)への社会人及び留学生受入人数113名(累計)(高知大学)

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	～	2027
当初目標	5人	7人	15人	24人	35人	48人	61人	74人	～	113人
実績(累計)	5人	16人	22人	25人	28人	34人	39人	45人	～	

KPI⑦：農林海洋科学部学生の高知県内就職者数(累計)(高知大学)

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	～	2027
当初目標	—	—	—	—	23人	41人	59人	77人	～	173人
実績(累計)	—	—	—	—	23人	44人	65人	83人	～	

2025年度計画

- ・ **【大学改革】** さらなるトップ人材の招聘による強化強み
- ・ **【大学改革】** 国内研究拠点（北海道大学・九州大学）を通じて**全国域外展開**
- ・ **【中高生等訴求】** オープンキャンパス、物部キャンパス一日公開等
- ・ **【教育委員会関係】** 農業高校学力強化継続実施
- ・ **【国際連携】** 国際シンポジウムの開催、日越大学、インドマハラナ・プラタップ園芸大学との連携等